

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

後期学校教育アンケートの結果を振り返って

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。後期の学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、重要度(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、実現度(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割合で表しています。

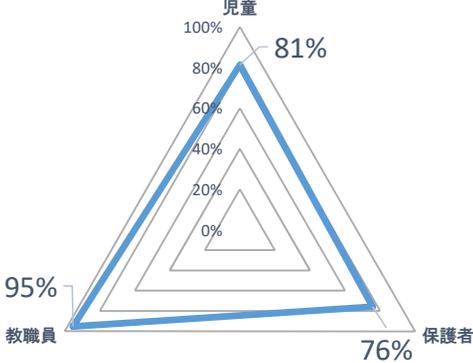
質問項目	前期		後期		前期			後期		
	保護者	教職員	保護者	教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
	重要度		重要度		実現度			実現度		
① じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりとしたり、はっぴょうしたりしている	97%	100%	98%	100%	89%	75%	100%	81%	76%	95%
② ともだちときょうりよくしてべんきょうしている	98%	100%	96%	100%	88%	82%	86%	86%	84%	95%
③ いえでかならずしゅくだいやじしゅがくしゅうをしている	99%	100%	99%	100%	95%	83%	100%	92%	82%	100%
④ ほんをよくよんでいる	98%	100%	96%	100%	81%	53%	86%	73%	51%	95%
⑤ まわりのひとにすすんであいさつしている	100%	100%	98%	100%	80%	81%	95%	83%	81%	100%
⑥ やくそくやきまりをまもっている	100%	100%	99%	100%	94%	91%	95%	89%	87%	100%
⑦ はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりと食べている	99%	100%	98%	100%	85%	77%	95%	86%	77%	95%
⑧ すすんでうんどうしている	98%	100%	97%	100%	86%	66%	77%	85%	69%	90%
⑨ ともだちとなかよくあそんでいる	98%	100%	95%	100%	96%	92%	95%	97%	91%	100%
⑩ いえのひととよくはなしている	100%	100%	99%	100%	96%	91%	95%	93%	91%	95%
⑪ こまったときはせんせいにそうだんしている	98%	100%	97%	100%	76%	82%	95%	77%	83%	100%

重要度の集計結果から

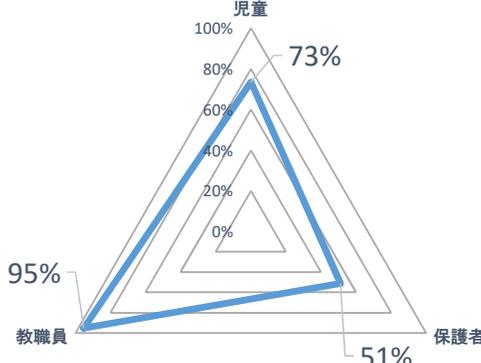
保護者・教職員のみ

今回も、教職員におきましては、すべて重要であるという認識をもって教育活動に当たっている一方で、保護者の皆様のアンケートの回答につきましても、95%以上の方から全項目において重要であるというご回答を頂きました。他方で、コロナ禍では活動に制限を設けなければならぬために、重要性が昨年度と比較すると若干減少した結果となっています。

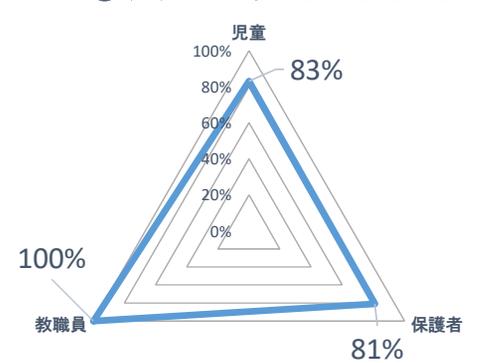
①授業にまじめにとりくんでいる



④ほんをよくよんでいる



⑤すすんであいさつしている

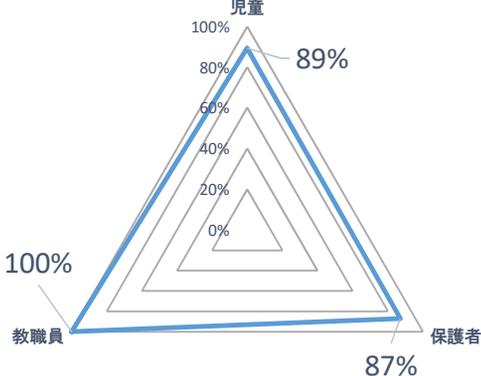


後期の回答結果において、児童・教職員のポイントが前期と比較して下がりました。3学期が始まり、すぐに緊急事態宣言が発令され、児童の学習活動にもかなり制限がかかりました。子どもたちは仕方ないとわかっていながらも、本来の活動の再開を求めています。来年度はGIGAスクール構想が本格始動します。1人1台の学習用コンピューター(GIGA端末)を使って調べたり、まとめること、考えを伝えたりしていきます。子どもたちの探究活動が充実したものとなるよう、教職員も工夫して授業を行っていきたく思います。

児童・保護者の実現度において、前期より大きく下がったことが気になります。特に、児童の回答が前期よりも後期の方が減少していることから、実際に子どもたちの読書時間が減少しているのではないかと心配しています。子どもたちが読書に親しむことはとても大切なことです。今後も、学校図書と連携し、子どもたちへ読書の働きかけをすべく、学習に関連した本や、おススメの本などをブックトーク等を通じて紹介するなどして、読書への関心を引き立て、学校図書館の利用を促していきたいと思ひます。ご家庭でも子どもたちが読書に親しめるような働きかけを今後お願いいたします。

全体的には、前期とほぼ変わらない傾向にあるといえますが、児童の回答においては、肯定的な回答が増加したことがわかります。前期よりも「よくできている」「だいたいできている」と回答した人の数が増え、これは、地域・家庭・学校が継続して、あいさつの大切さを子どもたちに伝えてきた成果だと考えています。子どもたちが、登校時にあいさつしている様子を見守っていると、元気のいいあいさつもあるようです。会釈だけの時もあるようです。人それぞれあいさつの仕方は違いますが、あいさつしようとする子どもたちの気持ちを認めながら、今後もあいさつの輪を広げていきたいと思います。

⑥やくそくやきまりをまもっている



後期のアンケート結果で、最も気になったのが、こちらの項目です。昨年度に引き続き、実現度が児童・保護者ともに減少していました。コロナ禍で自宅での過ごす時間が長くなり、スマホやゲームをする時間が長くなったことが要因の一つとして考えられます。また、学校行事や他学年との交流の場である児童会活動が今年度は中止が相次ぎ、子どもたち同士で協力して高め合う場が少なくなってしまうことも要因の一つと考えられます。特に高学年は学校行事で中心的な役割を果たします。学校生活において高学年がよい手本となるように、今後も働きかけていきたいと思います。また、ご家庭でも子どもたちが次の学年に向けて意欲を高められるよう、ご支援ください。

自由記述欄から

「アンケートにより、日ごろの子どもたちへの働きかけを見直す機会になった」「コロナ禍ではあるが、集団を意識して色々なつながりを深める・思い出に残る学校行事に期待している」「先生と保護者のコミュニケーションが大切」「集団登校で相手を見て元気よくあいさつできるようになってほしい」「学習のお直しをしっかりとさせたい」「子どもたちが読みやすい本を紹介してほしい」など、ご意見やご指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしていきます。

学校運営協議会理事会より

子どもたちのあいさつの項目が少し改善されたという結果は、よいことだと感じる。今後も、大人が様々な面でよい手本を示していかなければならない。見守り活動や近所での声かけを引き続きしていくので、一層あいさつが広がっていけばよいと思う。また、コロナ禍で、子どもたちがゲームやスマホをする時間が増えていると聞いている。子どもたちの健全な成長を促せるように、また、読書に親しめる環境づくりができるように、家庭・地域・学校で協力して、今後も働きかけをしていきたい。

学校教育アンケート全体を通して

今年度のアンケートの回答をみて、教職員や保護者が、子どもたちの健やかな成長を見守っていく上で、11のアンケート項目1つ1つの内容が大変重要であるということ改めて認識しました。今年度は、コロナ禍で様々な活動場面に制約が加わり、これまで続けてきた行事や学校生活において、中止や見直しがなされてきました。大人も、子どもも新しい生活様式に徐々に慣れてきたとはいえるものの、アンケートの実現度が全体的に低下しているのは、コロナによる影響が1つの要素となっていると考えられます。しかし、不安定な時期だからこそ、家庭と地域と学校が連携して、子どもたちの不安を減らす働きかけを今後も行っていく必要があります。明るい話題としては、例年本校が課題に掲げている「あいさつ」の項目結果に上昇がみられたことです。寒い日でも、多くの子どもたちがあいさつにこたえてくれるようになり、自分からあいさつをする場面も増えてきました。地域の見守り隊の皆様による声掛けや、PTA本部役員の方があいさつ運動、また、教職員が率先してあいさつをしたり、手洗いを呼び掛けたりしてきた地道な活動の成果といえます。各項目では、まだまだ課題はありますが、今後も子どもたちへのよりよい関わり方、働きかけの仕方を考えていくために学校評価アンケートの結果を活かしていきたいと思ひます。これからも教職員と保護者の皆様、地域の皆様と情報交換をしながら、子どもたちへのよりよい働きかけを考えていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。